

ホテルをシンボルとした 地域づくり



埼玉県 東松山市 環境保全課 加藤敏彦

1

東松山市の概要

- 首都 50km圏… 埼玉県のほぼ中央
- 面積 65km² …平成の合併は成就せず
- 人口 9万人弱…最近10年間は横ばい



2

関東平野が、秩父の山並みへと
連なる丘陵地と出会う場所



∴ 崖線に沿って点在する湧水が
ホタルの格好の生息地



3

全国各地で様々な「里づくり」

- ホタル⇒タレント種と呼ばれる人気者
- 各地で様々な「里づくり」
⇒環境、観光、地域おこし...

東松山市の「里づくり」の発端

- 市街地の湧水のほとりにヘイケボタルが細々と生息 ⇒近所の中学生が市長にファックスを送り、保存を直訴したのがきっかけ

平成11年度から事業着手。早10年！

4

当初のイメージ

市民が身近で気軽にホタルを観ることのできる「**ホタル公園の整備**」として事業をスタート



ただし、
その後の市民主体の検討を通じて
大きく方向を転換！

5

ホタルの里づくり検討委員会

(平成11～12年度)

●生息確認調査

⇒全員公募の委員11名が市職員と市内全域を調査した結果、**20か所余り**で生息を確認



●「ホタルの里づくり基本計画」の策定

⇒生息地ごとの保全・整備の考え方と拠点として整備する候補地の整備構想を取りまとめ →**ややホタル偏重**

6

基本計画における拠点整備構想



基本計画における拠点整備構想

- 20か所から⇒候補地2か所に絞り込み

規模…5ha程度

整備内容

管理・活動センター

増殖ハウス

下水処理施設(合併処理浄化槽)

駐車場・案内板・標識等

水路・湿地整備

木道整備

樹林整備

施設整備

集客重視

●生息地周辺の生態系調査

(平成13～14年度)

●ホテルの里づくり推進委員会

(平成14年度) ⇒ 文化的な視点も加え
より即地的に拠点整備計画を検討

- ⑦ 検討委員会の経験者＋公募(新規)
- ② 拠点候補地の自治会長
- ② 小学校長(ホテルの増殖経験あり)
- ① 隣町のエコミュージアムセンターの職員
- ① 環境市民団体のメンバー ① 郷土史研究者
- ① 郷土文学関係の市民団体のメンバー

9

ちょうど同じ時期、2年にわたる検討を経て 環境まちづくり宣言を制定

(平成15年6月)

⇒ 身近な人と人、人と自然とのコミュニケーションが年々希薄化していることが、地域のモラルと問題解決能力の低下を招き、環境、福祉、教育、防災防犯など様々な地域課題の共通の原因となっている。



コンセプトは「つながりの再生」

10

東松山市環境まちづくり宣言

(平成15年6月25日制定)

〔前文〕

わたしたちは、自然の恵みの中で先人が
育んできた文化と伝統を受け継ぎ、
人と自然、人と人とのつながりを豊かにし、
かけがえのない環境を未来の世代に手渡
していくことを宣言します

11

青く澄みわたった空 あざやかな丘陵のみどり
自然の中で感じる生命の息吹
まちの姿は変わりつつあるけれど
未来の子どもたちから あずかっている大切なもの
暮らしの中で つちかわれてきた大切なもの
このまちにはたくさん残っています
「つながり」を感じてみたら
子どもたちに手渡したいものに気づきます
私たちにできることがみえてきます
「私」は豊かさを育てながら
自然にいかされたこのまちを愛しつつ生きていきます

12

- 推進委員会での幅広い検討
（平成14年度）
- 環境まちづくり宣言の制定
（平成15年度）



「ホテルをきっかけとした
持続可能な地域づくり」
に大きく方向を転換
⇒具体的には…次の2点

13

● 拠点整備

⇒中心ではなく、モデルづくり

20か所あまりの生息地のうち、1か所だけに
多額の費用をかけ、立派な公園を整備する
のは、本来“環境の仕事”ではない



他の生息地への汎用性のある、低費用で、
持続可能な“しくみづくり”が重要。
また、公園として“公有地”になってしまうと、
管理の主体は自ずと市となり、市民が主体的
に関わる意識は希薄になる。

14



用地買収費用が嵩み、市民との距離感も大きくなる公有地化は行わず、関係者の合意に基づいて、民有地のまま、地域ぐるみで整備し、その後の維持管理も行う

「**新たなコモンズ（共同管理空間）の創出**」を目指す

15

●**地域の活動や資源とのネットワーク化**
⇒**施設の整備ではなく、場づくり**



初夏の一時期だけ、たくさんの人がホテルを観るためだけに押しかけ、残りの11か月は閑古鳥という場所にはしたくない。

ホテルだけにとらわれず、年を通じて、幅広い市民が訪れ、思い思いに関わりながら、**“つながり”を豊かにできる場づくり**を目指す

16

CHAPTER 1

モデルづくりとしての 拠点整備



17

拠点整備エリア航空写真

斜面林

木竹混交林。点在する湧水の周囲を中心、崩落が進んでいる

畑

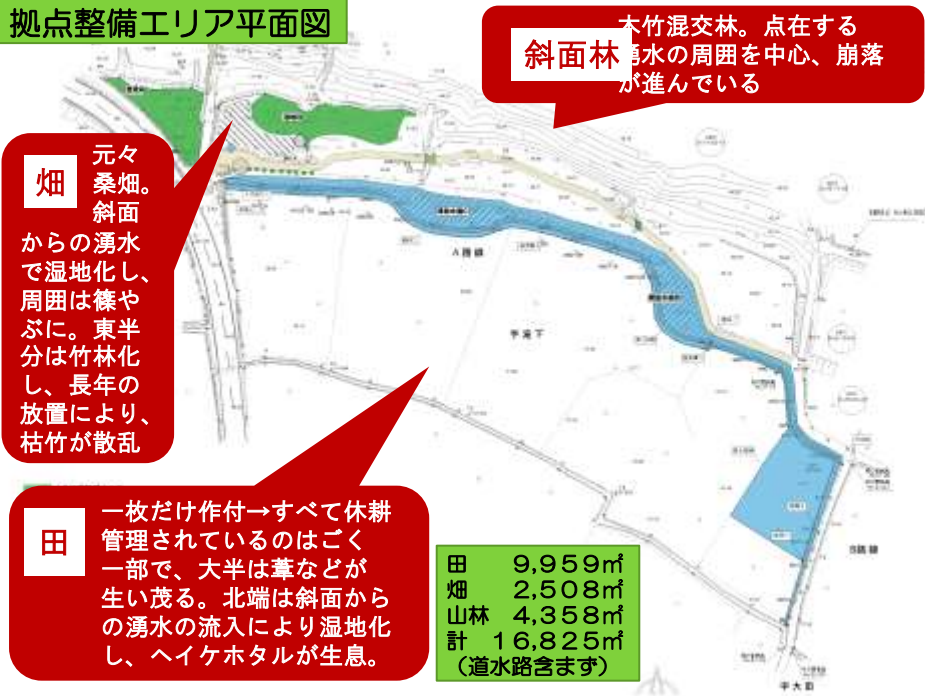
元々桑畑。斜面からの湧水で湿地化し、周囲は篠やぶに。東半分は竹林化し、長年の放置により、枯竹が散乱



一枚だけ作付→すべて休耕管理されているのはごく一部で、大半は葦などが生い茂る。北端は斜面からの湧水の流入により湿地化し、ヘイケホタルが生息。



拠点整備エリア平面図



平成16年度～

まずは、拠点整備地の関係者の理解と参加の促進に取り組む

コンサルタントへの委託による拠点整備予定地の調査に並行して、関係者の協働による「整備作業」と「勉強会」、「懇談会」を重ね、事業への共通理解を図りながら、計画づくり、合意形成を一步一步進める

- ⇒共に汗をかき、現地が次第にきれいになっていく達成感を共有しながら事業への理解と相互の信頼関係を構築
- ⇒作業や話し合いには、議論より実践を待ち焦がれていた「ホタルの里づくり推進委員会」のメンバーも参加



率先実行と外部評価の役割果たす！
現在は、市民団体として独立
「ホタルの里づくり協力隊」として
市内各地の活動を支援

21





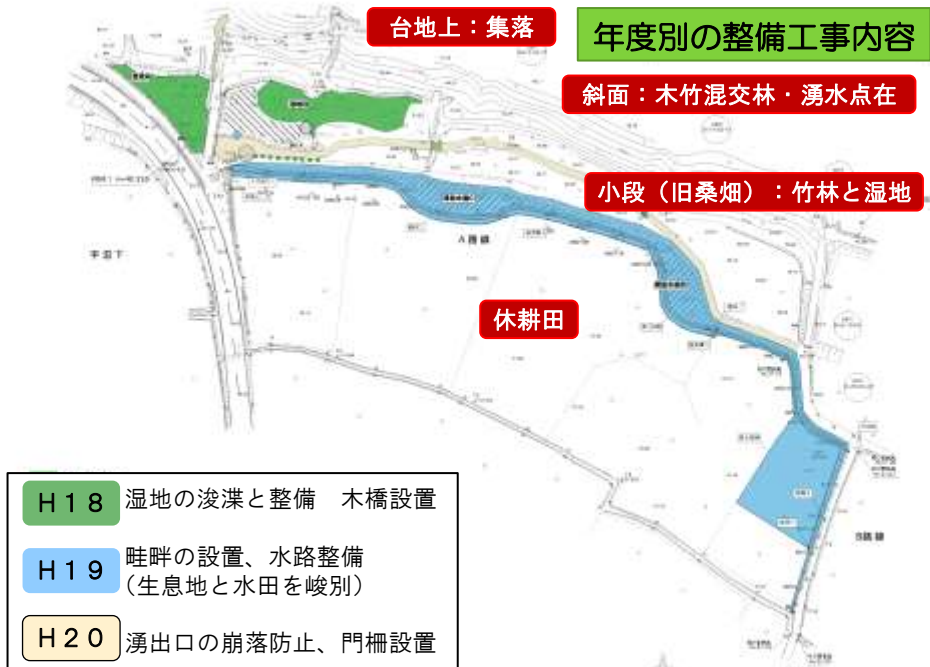
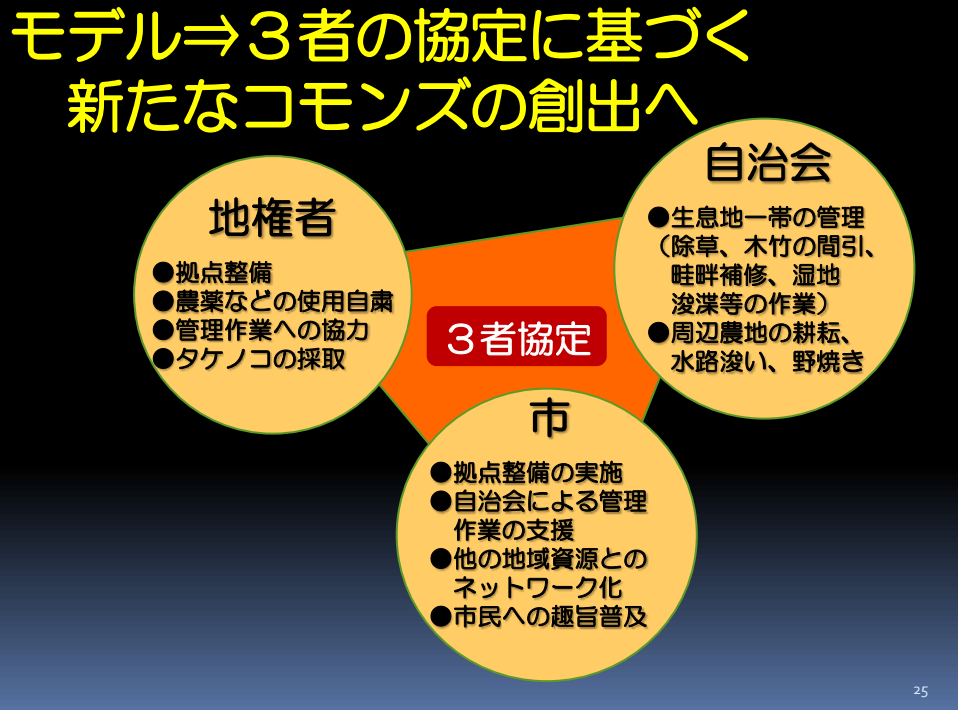
3年間にわたる（平成16～18年度）

- 専門家による調査
 - 懇談会などを通じた計画づくり
 - 関係者の協働による整備作業
 - それらを通じた共通理解と合意形成
- を重ね、**



平成19年1月

地権者、地元自治会、市の3者で
協定（暫定版）を締結し、3か年の
工事に着手！（平成18～20年度）



基本計画時との相違点

●規 模

5ha程度⇒1.7ha(1/3)

身の丈の広さ

●整備内容

×管理・活動センター

施設無し⇒農地

×増殖ハウス

故に建築不可

×下水処理施設(合併処理浄化槽)

△駐車場・案内板・標識等 + 門柵

○水路・湿地整備

△木道整備(木橋のみ)

集客より、地域の

○樹林整備

の主体的参加

27



モデル＝コモنزの創出の成果

- 地権者 合併処理浄化槽の設置
除草剤使用の自粛
周辺の農地や水路の管理促進
⇒身近な自然と毎日の暮らしとの
つながりへの理解深化
- 自治会 ホタルの里推進委員会の設置
(重労働にも笑顔で参加)
自治会活動への参加者の増加
便利屋組織の立ち上げ
⇒地域課題への主体的アプローチ

31

⇒地域への愛着の深まり

畑仕事の帰りや、散歩の途中でホタルの里を訪れ、様子を眺めたり、立ち話をする人が増加。

⇒初夏の宵、孫の手を引いてホタル見物そして、今月、地区内の第2の生息地の整備に自治会自らが着手！

- 他の地域

身近な実践例による説明のし易さ

⇒今月から、他地域の生息地2か所で新たな里づくりがスタート！

32

CHAPTER2

地域の活動や資源との ネットワーク化



- ⇒ESD（持続可能な開発のための教育）
- ⇒エコミュージアム

33

どんな活動や資源が？

- いったん途絶えかけ、復活した「子ども獅子舞」
⇒身近にある宝物を受け継いでいくことの大切さを学ぶ 獅子舞＝ホタル 環境⇔文化
- 毎年生えてくる「竹」
⇒処分がたいへん、有効活用が課題
- 近くにある「原爆の図丸木美術館」
⇒かつての過激な思想へのアレルギーもあり、地域から浮いていた
- 地元を舞台とした児童文学「天の園」
⇒地元では、あまり読まれていない。

34

●ホタルの里のキャンドルナイト

- ⇒環境省が、毎年夏至の日に全国展開しているスローライフイベント、「100万人のキャンドルナイト」の一環として実施
- ⇒羽化の時期にも重なるため、生息地で伐採した竹を使い、ろうソク立てをつくり、生息地をライトアップ
- ⇒準備作業は、ホタルの里づくり協力隊と地元中学生が実施
- ⇒アマチュアミュージシャンのミニコンサートも
- ⇒市街地でのライトアップイベントにも進出

35



●児童文学「天の園」

ホタルの里のある「唐子地区」を舞台とした長編児童文学。明治の晩年、当時小学生の作者が、様々な体験を通して成長していく姿を描く自伝的な内容。



6学年⇒6分冊 教材として使い易い

●児童文学「天の園」

主人公の名前は、保（たもつ）

まずしい暮らしの中で、幼い“保”を育てていることを気づかわれた時の母の言葉

「けしきでお腹のいっぱい（＝くちく）なる子に育てます。」

●「天の園」の会

地元ゆかりの児童文学
をまちづくりに生かす
取り組みを長年展開。



活動が実り、平成16
年、アニメ映画化され、
上映会を開催



●ホタルの里の展覧会(平成17年度)

戦後60年の節目の
年に「天の園」が
アニメ化された。



地域ゆかりの作品等
を集め、持続可能な
地域づくりをテーマ
とする企画展を丸木
美術館で共同開催。



●原爆の凶丸木美術館

ホテルの里の近くにある平和をテーマとする美術館



●三橋国民氏との出会い

以前に勉強会に来ていただいた際の大場先生のお話から、「若くして散った戦友の鎮魂のため、ホテルにまつわる自身の鮮烈な戦争体験を描いている芸術家の存在」を知る。



企画展の際の借用をお願いしたところ話が急展開し、大作3枚を新たにとして描き起こし、市が寄贈を受けることに！

●ホテルと鎮魂展の開催



150号（≒170cm×190cm）×3枚

●柿の木プロジェクト（平成17年度）

⇒ホテルと平和を結びつけた取り組みを
一過性で終わらせたくない



世界的な現代芸術家である宮島達男氏が
主催する「柿の木プロジェクト」を誘致

長崎で被爆した“柿の木の2世”を平和の
シンボルとして、アートイベントとともに
世界中に植える活動

⇒原爆とアートというコンセプトが共通

●地元小学校の総合学習や地域コミュニティとの連携による取組



ホタルの里で切った竹を使って、モニュメントづくり

プロジェクトを紹介した紙芝居の上演



●地元小学校の総合学習や地域コミュニティとの連携による取組



地域の方も参加し、公園にも植樹

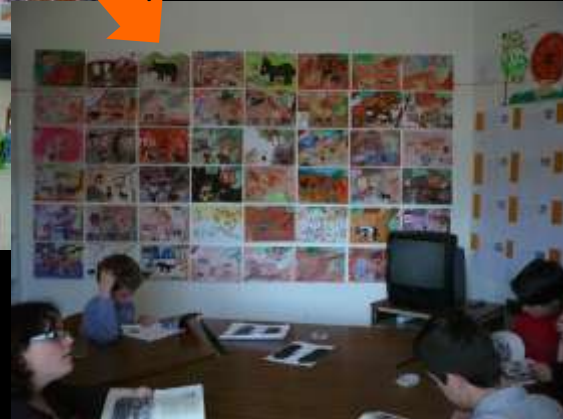
小学校への「柿の木2世」の植樹



●再び企画展を開催（平成19年度） 「柿の木プロジェクト展」



●企画展のために小学生が描いた 作品は、遂に海を渡りフランス のボルドーへ



地域資源のネットワーク化の成果

●丸木美術館

⇒市との連携強化：環境フェアに参加
ホテルの里づくりコーナーを常設展示

⇒地元小学校との総合学習

での連携の定着化

⇒地域との交流の活発化

●地元小学校

⇒地域学習の深化

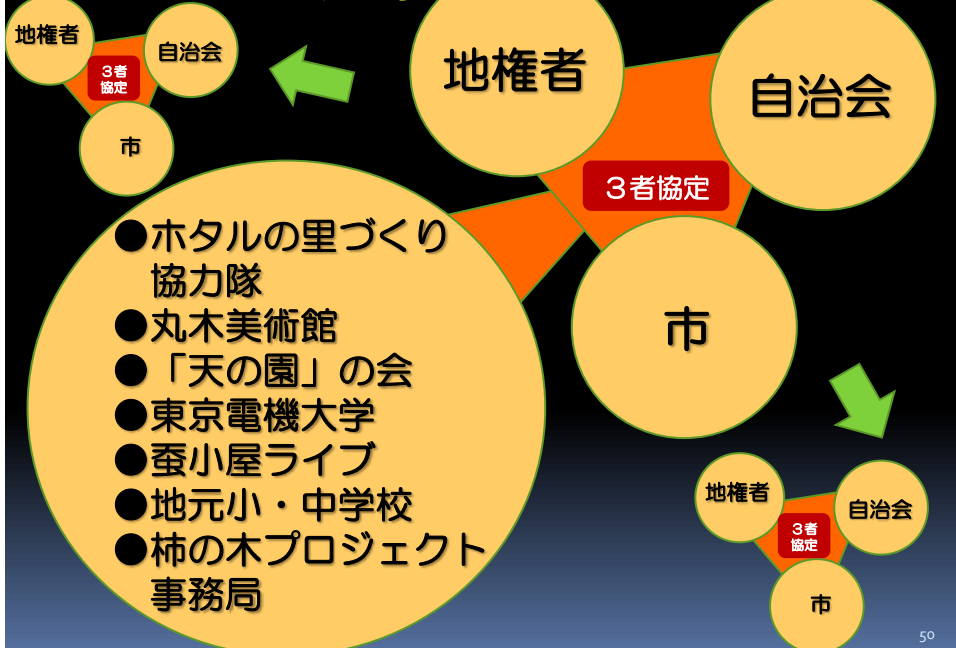
⇒国際交流への発展

今年度も小学生の作品がボルドーへ！



49

コモンズの広がり



50

●ホタルの里づくりから学んだこと
足元にある大切なもの、大切な場所を共有
することが豊かな地域づくりの基本。つながり
が豊かであれば、モラルが保たれ、地域の
問題解決能力も高っていく。

